

ぽらりす

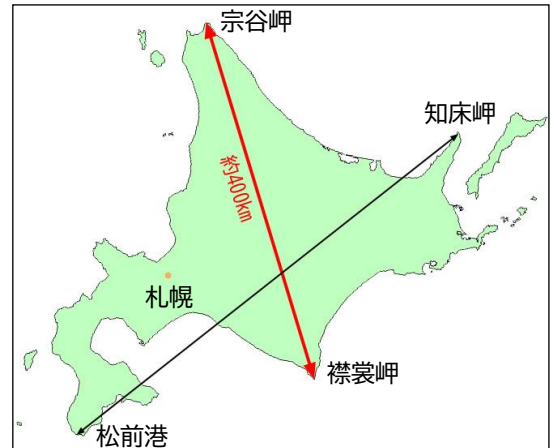
≪2025年5月3日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫



【北海道を基準に考えてみよう！】

北海道の南北の両端、宗谷岬(そうやみさき)～襟裳岬(えりもみさき)間は直線距離で約400kmあります。もし2地点を直線で結ぶ高速道路があったとして、自動車で100km/時で走っても4時間もかかるため「北海道はでっかいどう」とよく言う訳ですね。(東西方向では松前港～知床岬間が直線距離約500kmと、もっと大きくなります。)

北海道のこの距離を基準にして、他のものと比べてみましょう。すると、東京～大阪間も直線距離が約400kmで北海道1つ分、新千歳空港～羽田空港間が約800kmなので北海道2つ分になります。

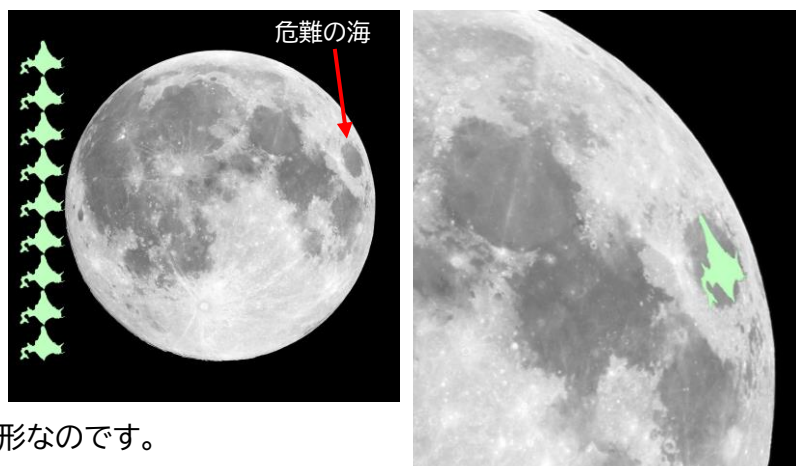


☆今度は空に向かって

「水平方向に広がっている北海道」を「もし垂直に立たせたら」上空約400kmまで届きますが、そこには現在、日本人宇宙飛行士・大西卓哉さんが船長を務めている『国際宇宙ステーション(ISS)』の軌道があります。ISSの速さは約8km/秒、つまり北海道1つ分の距離をわずか50秒で飛行していることとなります。(地球1周にかかる時間は約90分。なお、ISSの実際の軌道はおおよそ西から東で、南北方向には飛行していません。)

☆月と比べると

月の直径約3500kmは、北海道9つ分より少し小さいです。写真の満月の右側「危難の海(きなんのうみ)」または「危機の海(ききのうみ)」と呼ばれる黒っぽい地形は、地球から見ると月の縁にあるため南北に細長い楕円(だえん)形に見えますが、実際には南北約400km、東西約500kmの横長の楕円形だそうです。すなわち、ここは北海道がぴったり収まる地形なのです。



☆直接見ることはできませんが、

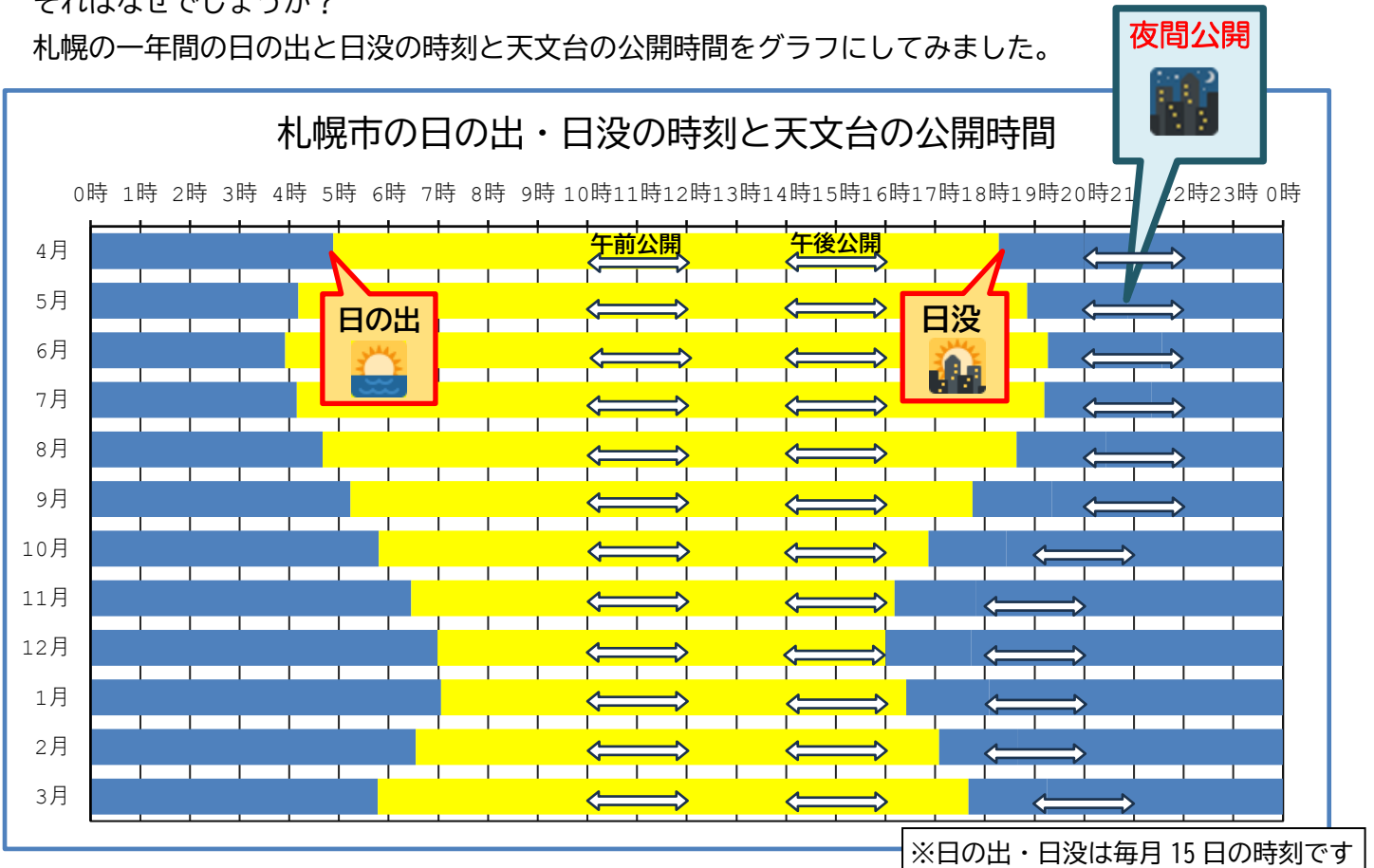
オーロラ発生の原因の1つとされる「太陽風(たいようふう)」の正体は、太陽から放出された電気を帯びた粒子(陽子や電子など)です。その平均速度は地球の公転軌道付近では約400km/秒なので、北海道1つ分をたった1秒という猛スピードで飛んでいます。でも、安心してください。地球には大気があるため生命は守られているのです。(布施隆久)

夜間公開が6月と7月に減るのはなぜ？

札幌市天文台の夜間公開は、年間約60日、毎月ほぼ一週間おきの金曜から日曜までの週末に行われており、時間帯は季節により変動します。毎年、年度ごとにスケジュールを決めているのですが、例年6月と7月には開催が少なくなります。過去には6月に夜間公開を開催しない年もありました。

それはなぜでしょうか？

札幌の一年間の日の出と日没の時刻と天文台の公開時間をグラフにしてみました。



いかがでしょう。月ごとに日の出と日没の時刻の変動がかなり大きいですね。

6月と7月は夏至（げし：今年は6月21日）の頃にあたり、夜間公開の開始時刻には空はまだ明るく星がほとんど見えないため公開日が少なくなるのです。（星をたくさん見るには21時以降がおすすめです。）

地球上では、緯度が高い地域ほど一年間の日の出と日没時刻の変動が大きくなります。北緯66.6度以上の地域では、夏至の時期には24時間太陽が沈まない『白夜（びゃくや）』、冬至の時期には24時間太陽が昇らない『極夜（きょくや）』となります。

札幌市天文台では、今年も6月と7月には夜間公開が3日間だけと少ないのですが、10月の中秋の名月、11月のスーパームーン、秋から冬にかけての土星や木星、また来年3月の皆既月食の観望も楽しみですね。

天文台に今年度の公開日程表を配布しています。また札幌市青少年科学館のHPにも掲載していますので、どうぞご利用ください。（横山明日香）

☆ 5月の夜間公開（予約は不要です。公開時間内にお越しください。）

2日(金)～4日(日) 20～22時 月・火星・春の星座

16日(金)～18日(日) 20～22時 火星・春の星座

※ 休台日は、7日(水)、12日(月)、19日(月)、26日(月)です。

